

村づくりカタログ



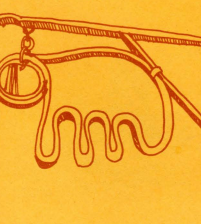
第1回 “手づくり看板”

■村づくりカタログを始めます。
このクローバー3号の紙面一新を機会に「村づくりカタログ」を始めることにしました。村づくりのちょっとした工夫や知恵を、毎面テーマを決めて、集めていこうと思います。そして、そんな工夫や知恵が、清里をもっと住み心地良く、訪れて良い村にしていけるに役立てばと思っています。

■第1回は看板です。
日本の古い町や、ヨーロッパの街を歩いていると、表情豊かな街角に出会うことがあります。いろいろな店や家が、一軒一軒語りかけているようにみえます。魚屋さんは魚屋さんらしく八百屋さんは八百屋さんらしく、旅館は旅館らしく、自分の個性を出しているように見えます。そんな表情の中で



大切な役割を果たしているのが看板です。レストランはナイフとフォーク、眼鏡屋さんは眼鏡を、靴屋さんは靴を、それぞれにふさわしいモチーフを見つけて看板にしています。街行く人々はまず看板を見て、そこの主人の人となりを読んでもらいます。そんな風に、看板は道行く人々に、始めに語りかける挨拶なのです。



■看板を作るのは、看板屋さんだけではありません。
近所の職人さんに作ってもらう方法があります。大工さん、建具屋さん、彫刻家や陶芸をやっている人達に頼んで、他の場所で見慣れない看板を作ってもらうのはどうでしょう。清里には、もえぎの村があります。いろいろな職人さんが集まっているようです。



■看板コンクールはどうでしょう。
みんなで自慢の看板が出来たら、コンクールをしてみたらどうでしょう。毎年秋に、牧草地で野外看板展を開いたら楽しいかもしれません。苦勞語・自慢話・情報交換・めずらしい話、新しいアイデアが浮かぶでしょう。



■自分で作っても、もちろんかまいません。
木の看板は、雨・風・日に当たって割れたり、反ったり、腐ったりします。材料選びを、慎重にしなければなりません。板材ではヒノキ・スギ・マツなどが適しています。他にイチイ・サワラ・タモ・シロジ・ケヤキも使えます。製材所に行って、木端を安く譲ってもらうことです。又、耐水ペニヤは機械加工が容易ですし、清里に多いカラマツで集成材を作り、使うのも一案です。塗装には、オイル

ペンキや水性ペンキを使います。防腐・防虫効果のあるキシラデコール、ガードラック等では、木地をきれいにいかす事ができます。看板作りの材料は、木以外にもたくさんあります。粘土、鉄、アクリル、紙、縄、布、ガラス、フアラオンシート（ペンキの代わりに貼ることのできるシート）。



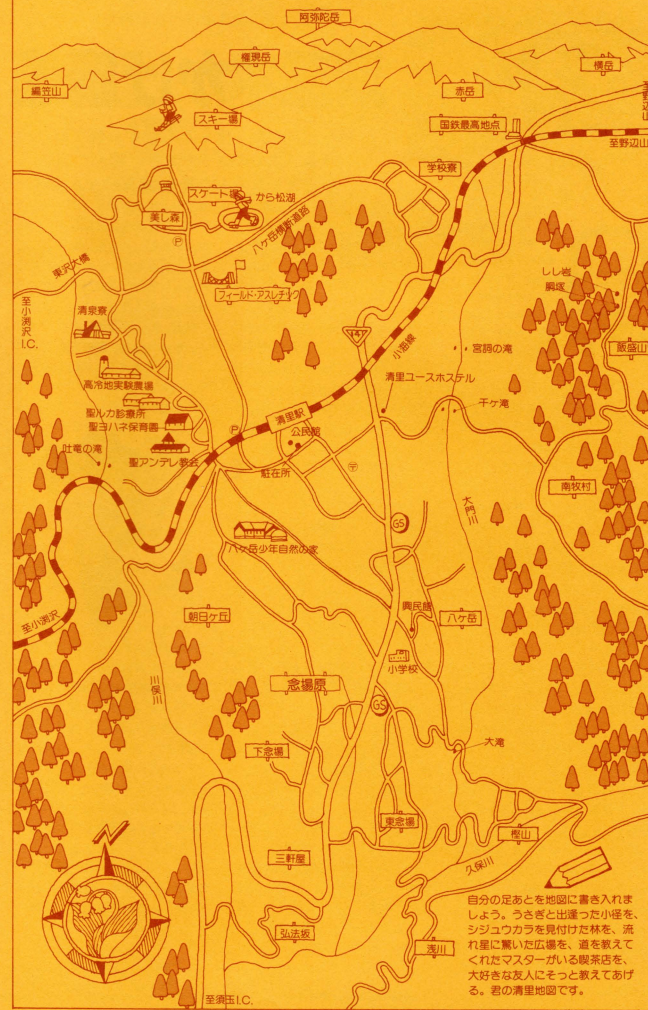
■看板作りを助けてくれる人・本・もの
●職人さん：清里・もえぎの村（大工、造園工事）☎05514-8-2339 / 岐阜・オークレック（木工）☎05776-8-2756
●本：ヨーロッパの看板1・2 / アメリカの看板（美術出版社）
●もの：東急ハンズ ☎03-476-5461

●自分で作っても、もちろんかまいません。
木の看板は、雨・風・日に当たって割れたり、反ったり、腐ったりします。材料選びを、慎重にしなければなりません。板材ではヒノキ・スギ・マツなどが適しています。他にイチイ・サワラ・タモ・シロジ・ケヤキも使えます。製材所に行って、木端を安く譲ってもらうことです。又、耐水ペニヤは機械加工が容易ですし、清里に多いカラマツで集成材を作り、使うのも一案です。塗装には、オイル



■企画・制作／かいアソシエイツ
この欄を毎回担当していく事になりました。質問や良い考えがありましたら、気軽に電話を下さい。
160 東京都新宿区大塚町32 第2編組ビル ☎03-355-5710

KIYOSATO COUNTRY MAP



TIME TABLE

●全車時刻表

●山梨交通バス

小淵沢 止り	清里	下り 小淵
6:45	6:18	6:21 8:47
8:28	8:01	8:02 10:05
9:23	8:55	10:07 12:11
11:25	10:57	12:07 14:13
12:45	12:19	14:07 16:14
14:33	14:06	15:07 17:19
17:32	17:05	17:08 19:19
18:33	18:06	17:44 19:58
20:24	19:57	19:25 21:39
		21:33 23:32(中込止)

窪崎駅→清里駅→八ヶ岳口→清里駅→窪崎駅 (美し橋)
●8:14 → 8:23 ●8:36 → 8:42
●9:10 → 9:19 ●9:31 → 9:37
9:15 → 10:13 → 10:22 10:46 → 10:52 → 11:45
10:15 → 11:13 → 11:22 ●11:51 → 11:57
●12:12 → 12:21 13:06 → 13:12 → 14:05
●13:20 → 13:29 ●13:41 → 13:47
●14:15 → 14:24 ●14:46 → 14:52
●15:12 → 15:21
14:30 → 15:28 → 15:37 16:11 → 16:17 → 17:10
17:31 → 17:37

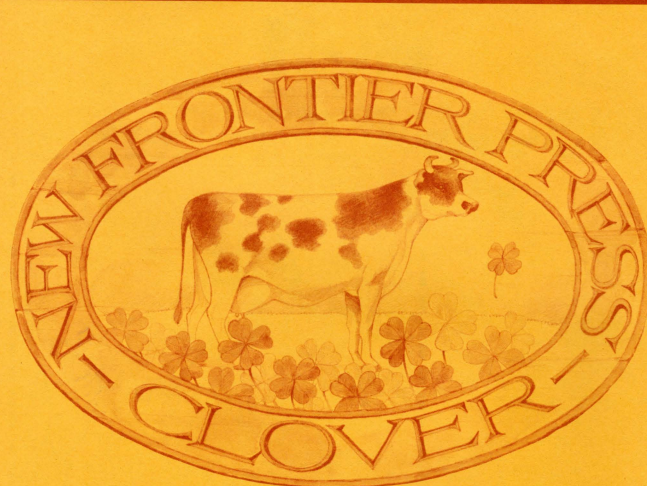
(●印は休日運転、○印は10/31までの休日運転)

・高根タクシー ☎8-2211 八ヶ岳観光タクシー ☎8-2025
・山交タクシー ☎8-2029 清里観光タクシー ☎8-2021

STAMP HERE

自分の足あとを地図に書き入れましょう。うさぎと出逢った小径を、シジウカラを見つけた林を、流れ星に集った広徳を、道を教えてくれたマスターがいる喫茶店を、大好きな友人にそっと教えて。君の清里地図です。

清里新聞 / 1982 AUTUMN



人々がめぐるしく夏を過ごしている間に、野はひそかに歩みを早めて、知らぬうちに季節の交代をはじめていた。ヒメジンの白い群にほつと、われもこうが点描されるのは八月も終る頃、朝な夕な渡る風が少しずつ冷ややかさを増してくるのに気付けば、あたりはすっかりと様変わりして、私は置き去りにされた者の寂しさを味わいつ、その肌寒さにあわてて毛糸の玉を巻きはじめ。季節のはざまにゆらく、まつ虫草の青を一枚のセーターに編みこむべく山辺の道をいそげば、その青を心に染めあげるとまもなく、一面の銀の穂がスキー場の原を埋めてしまっていた。思いがけない秋の繁みの中に立ち尽くして私はいつまでも越すすきの野を立ち去りかねる。

山合いに沈みゆく陽はやがて茜の色に名残りを深め、絶えゆく緑はこれを限りの華やかな暮切れを演出する。この世の不思議をとりまて織られたタビストリーが山肌飾られれば、あたかも一つの悲喜劇の終焉にふさわしい寂寥を思わせて、人々の心を大いにゆさぶり、ため息を誘う。戻り道には、自ら降りしきって敷きつめられた落葉松の絨毯があるから、私は静かに想いを踏みしめて歩いてゆける。壁にピンで止められたまま色あせてゆく絵巻に、こすもすの最後の薄紅を溶かせば、まるで頬に紅をさすように失った笑みをとりもどすことができるだろうか。唇をめぐるように、壁から葉書をはがして、私は毎夜夏からの便りに返事を書きつづける。日いちにちと冷えてゆく風の中で、想いだけはひたすらに熱くなってゆくのを、あの私を置き去りにして逝った夏は、一体、知るだろうか――と。

発行 清里観光振興会広報部・青年部企画広報部

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里3545
山交タクシー ☎8-2029 清里観光タクシー ☎8-2021
白倉徳三 TEL 05514-6-2118

WALK ABOUT

美し森

清里を歩きまわるための新しいハイキングガイド

●巨象の道、神々の庭、美し森にまつわる伝説を想いながら歩く——イマジネーションは、空に負けないくらい広がって行けよう。



美し森——清里では最もポピュラーな名勝地でしょう。よく「うつくしもり」と呼ばれることが多いようですが、本当は「うつくしもり」といいます。さて、今回は、美し森を中心としたハイキングコースと併に、その名の由来について紹介したいと思います。由来については、二通りの説があるのですが、まず甲州のある伝説によりますと……

その昔、富士山と八ヶ岳が背くらべをしました。彼らより高い柱がなかったのか、両者の頂上間に種（とい）を渡し、その中に水を流し判定して。水はなんと富士山の方へ向って流れたそう。富士山はよほど負けず嫌いだっただけか、性格が粗暴だったのか、くやしきのあまり、その種でもって八ヶ岳の頭をひっぱたいたのです。富士山の怪力で、八ヶ岳の頭は可哀想にバーンと割れてしまい、現在私たちが眺める姿になった……という話は有名ですが、実はこの後にこんな話がありました。頭を割られて途方に暮れていた八ヶ岳のもとへ、鞍馬山から大天狗が飛んで来て、同情したのか赤岳の山頂に社を建てて割れた頭を置いて齋祭（いつつまつ）らしめました。「齋く」とは心身の穢れを清め神に仕えるという意味です。また日本の神々が年に一度集まって祭事の相談をする齋（いつつま）の庭として使われた、ということから「齋し森」と呼ばれ、「美（いつつま）」が「齋」に代わり、現在の「美（うつくし）森」へと変わってきたという説です。

さて、二つめの由来は甲斐国志という文獻に採るのですが、「宇都久志森、八ヶ岳ノ麓念場ノ原ニ在ル小山ナリ……小者ヲ宇都久志ト云フ方言ナリ美觀ノ義ニオラス」ここで述べられる「宇都」とは獣（けもの）の通り道で、「久志」とは「越す」の古語風であつ、小さな山を意味する地形語です。つまり、その意味するところは「獣の行き交う小さな山」というわけです。さて、一体どんな獣が行き交っていたのでしょうか。実は、八ヶ岳東麓沿いにシンジュソウ、ナマンソウの化石が発見されています。80万年～5万年前に、巨象の群が南関東から甲府を通り、八ヶ岳の東麓沿いに北上したらしいことが記録に残ったのか疑問ですが、巨象の群が美し森をひっぱたいた可能性は充分考えられますね。

さて、美し森で八百万の神々が集まって何やら会議をしている様子、或いは巨象の群が大にのんびりと美し森を通り過ぎてゆく様子など想像しながら、ゆっくりと美し森を歩いてみるは如何でしょうか。もしかしたら、象たちが鼻を振り回しながら、北へ行くか南へ行くか議論していたのかも想像させね。

これからはかなり冷え込みますので、いつては暖かくして下さい。夕焼け時など、空の焼け色が濃くなります。白い服を着る場合は、服が変色する恐れがありますので御注意下さい。

参考：朝日新聞山梨版 冊子「Ooizumi高原」企画棟様

FOLKLORE



7年前、牧場を開設していた朝日ヶ丘の谷口彰男さんの足もとに、4センチ四方の石片が姿を現しました。拾いあげてよく見るとその石片は、何かを切る為に加工されているようです。谷口さんは昔の狩猟の名残りと重要視していなかったのですが、この石片に関しては、それを手にとった時、「やった！石器だ!!」と胸の中で叫んだそうです。

開拓入植で10年目、厳し過ぎる程の自然環境にあって、人が住むのは並大抵のことじゃないと言われるほどの清里に、何千年も前に既に先人が生活を営んでいたという事実の一片に出逢って以来、谷口さんは発掘に夢中になって取り組み、今日まで出土した石器や土器の破片は300点にもなります。

出土したのを見ても、まず石器では矢尻、皮剥ぎや肉切り用のナイフ、土堀りや祭祠用の石斧、祭祠用の丸石、火を起こす為のほみ石、木の実や草をすりつぶす為の石皿などがあり、土器では、古くは約8千～9千年前・縄文時代草創期に属する簡の目模様土

清里木かけ講座

●牧草に顔を出した石片から縄文時代の清里人たちのささやき声が聴えてくる…。 牧場主谷口さんの語る、清里縄文人の話。

器、7千～8千年前・縄文時代前期の草の繊維を塗り込めた繊維土器などから、新しいものでは弥生時代後期のものと思われる土器までと広範囲に渡って出土しています。

そのなかで最も数多くバラエティに富んでいるのが、縄文時代中期・4千～5千年前の縄の目模様といゆる、最もポピュラーな縄文土器です。いわば中期が最も繁栄しているわけですが、土器に付着している土を分析することにより当時の植物分布、さらには気候の状態が分るのですが、それによると中期は地球のサイクルでは間氷期にあたり、気候は温暖で住み心地は良かったようです。ですから、中期の縄文人たちの生活は豊かで活発なもので、他の時期より土器の製作も充実していたことが伺えます。これら縄文人の作品を見ると、大まкий小さいの、複雑な模様あり、他所からわざわざ遠くを運んできてそれを混ぜてさらに変化を持たせたり、木の実をすりつぶした液を塗って艶を出したりと、縄文人が自分たちの美意識を土器に表現しようとしており、その多様さ、巧みさに驚かされます。

彼らの生活は採集と狩猟で成り立っていました。木の実、草の根、きのこなどを集めたり、鹿や野ウサギなどを獲って、土器で調理したり貯蔵していたわけ。縄文人の生活が自然と調和することによって、つまり季節の変化に伴いリズムを変える動物植物の生活と一体となることで、自然から豊か



木かげにおいて、木かげで休もう 木かげに座って木かげを聞けば そこはほくらの青空教室



然環境の違いで、それぞれ特有の生活ぶりや報告されていますが、清里は今迄、本格的な調査はなされていません。清里の縄文人たちは、当然彼ら独特の、清里の自然と調和したライフスタイルを持っていたことでしょう。彼らのことがもっと詳しくなれば、清里の縄文文化は継続していったのか、或いは何らかの天地災異で断絶したのか明らかになることでしょう。そして、そこから今日の清里が今後どう変化していくのか、そのヒントなり引き出されてゆくといいものです。

この記事は、谷口彰男さんのお話をもとに構成いたしました。



VILLAGE VOICE

この絵は、国道141号線・弘法取の上つまみ清里の玄関口に掲げようとして現在計画中の看板です。その上部に描かれているタマゴ型のマークは、同時にデザインされた清里のシンボルマークです。このマークは、ヒトと自然が調和して豊かな生活を営んでいる。清里——というイメージと私共の願いを表しています。此地の豊かな自然環境は、私共に与えられたひとつの機会です。これを最大限に有効に生かし、子供や孫の代まで伝

SWINGIN' NATURE

山川草木、鳥獣虫魚。自然はいつもスイングしています。彼らに呼吸を合わせれば、スイングが伝わり、心は踊りだすでしょう。

「いい羽根飾りだね。だげどきみ、つける場所がまちがっているよ。」

かのルネール翁は樹上を見上げこう言ったそう。唐突に話しかけられた樹上のリスは、そのつぶらな瞳をパチクリさせ、枝葉の間に隠れてしまったのでしょうか。リスを他の動物と分けるとは、やはり何やら暖かそうな、その小さな体には大き過ぎる程豊かな美しい尾であるのは御存知の通りです。

さて、厳しい冬を目前に控えたこの季節、森も寒さにめげたのかそれまでは競い合うように競っていた葉は足もとに落ち、森の中の見通しが随分効くようになりました。リスにとっては、冬仕度に道

わたる大変な時期なのかもしれませんが、餌をほお袋いっぱい詰めこんで枝の上を器用に走り回る彼らに逢うチャンスも増えてきます。あなたが、ほんの少し気を使えば、例えばその御へお郷慮する時のような気ばりを持って、あなたと彼らの間は意外に簡単に身近なものになると思います。秋から冬にかけての森にフィットした色の服を選び、できるだけ少人数で、不用意に枝を折ったり大声を出したりしないで、森の中に溶け込んでいる空気に溶け込むつもりになって下さい。彼らは、自然でないものに対しては警戒心が強いですから、あなたも森のマナーを良く守って、森があなたを優しく包んでくれたら、彼らも安心するでしょうし、意外なコミュニケーションが生まれるのでは……。

私たちが逢う清里の森に棲む



リスはホンドリス（またはニホンリスとも呼ぶ）といって、これからの彼らは腹部が白色、背は灰色に衣替えし、耳の先にはふき毛がはえます。平地から1500mぐらいの低山もしくは高原の森林に棲み、特にマツやスギなど針葉樹の木立に好んで棲むといわれますので清里の森はホンドリスにとって格好の条件が揃っているわけです。彼らが最も活発に動くのは、彼らの朝ごはん時、早朝のまだうす暗いうちです。森に入って息をこらさずじっとして、頭の上から「カリカリカリ……」という音が聴えて来ますよ。それは同時に、八ヶ岳を全てとめる清里をとりまく山々の全てが最も美しく輝くその始まりの時。森の木立の間からさす朝日を受けて輝くリスの尾の美しさ、同じく朝日を浴びてそびえ立つ山々、秋から冬への早朝豪華二本立てプレミアショーを堪能して下さい。入場料はちょっと高く、お風呂と寒さ。御覧になる方には、よく冷えた特別おいしい八ヶ岳清里の森ブレンドの空気を全員にサービスします。参考：

「日本の哺乳動物」朝日録者 「日本の動物」増井光吉著

SMALL TOWN TALK

清里に暮す人、約2000人。飯盛山の手前、獅子岩から見下ろす清里は、高原の緑に埋もれる小さな村という感じです。この小さな村では一年に何回かクラシックコンサートが開催されています。特別に観光の仕事としてではなく、清里とその近辺に生活する人たちが、良い音楽を楽しもうと企画されたものが殆どです。3月17日（水）清里寮、10月4日（月）清里寮小コンサートも含め、いずれも平日しかもハイシーズンを避けて催されました。普段、ゆっくり話す機会を持たない清里の友だちも同志が、コンサートに出かけて来て共に演奏を聴き、語り合うという風景を想像して下さい。なかなか素敵で癒しと思いませんか。勿論、その日清里を訪れた旅人たちも、

それぞれのペンションや民宿などの御主人に連れられて同席している。旅人と清里の住人という関係を超えて、会場はどこもアットホームな雰囲気になります。そんな雰囲気になるのも、「僕らが僕らの村で、良い音楽を聴きたい。だからコンサートを催す。」という至極単純な、それだからこそ自然な発想による集いだからでしょうか。芸術の秋と申しますが、清里の秋は空気にその透明度を増し、聴こえてくる音は、より一層私たちの心に染み入ってくるでしょう。今度のコンサートは11月25日木曜日の夜、「清里・森の音楽会」クラシックギターのアンプラグドを、その時、共に深まる秋の日を暮すみんなで楽しみます。（問合せ先、清泉寮05514(8)2111）



コースタイムガイド

